

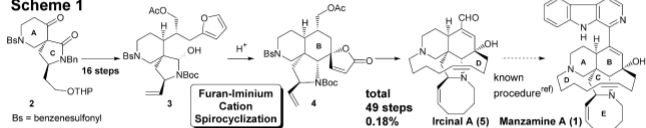
# 27J-am03

天然型マンザミンAの改良合成法の探索

○大房 俊行<sup>1</sup>, 菅 愛子<sup>1</sup>, 十亀 伸哉<sup>1</sup>, 林 迪乃<sup>1</sup>, 徳丸 和之<sup>1</sup>, 荒井 秀<sup>1</sup>,  
西田 篤司<sup>1</sup>(千葉大院薬)

【目的】当研究室は既に、フラン-イミニウムカチオンスピロ環化反応を鍵工程とする、海洋産アルカロイド (+)-マンザミンA(1)の形式全合成に成功している。(Scheme 1)

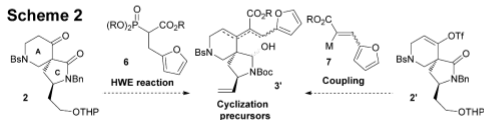
## Scheme 1



しかし、本合成経路は環化前駆体(3)の合成に至る工程数が多いため、マンザミンAの大量合成には問題が残る。そこで演者は、合成経路の短縮を目的とし研究を行った。

【方法】環化前駆体(3')をフランユニット側鎖とスピロラクトン(2)との Horner-Wadsworth-Emmons 反応あるいは、スピロラクトン誘導体(2')とのカップリングによって合成することを計画した。(Scheme 2)

## Scheme 2



【結果】HWE 反応はカルボニル基に隣接するスピロ環が立体障害となるためか進行しなかった。現在、カップリングによるフランユニットの導入を検討中である。